海外留学の夢をサポート　ラストリゾート
Last Resort

Press Release

2026 年 11 月 18 日

【ラストリゾート調査/2027 年版】
ワーキングホリデー人気国・渡航時期を予測

年間 3,000 名超の海外渡航データから見えた最新傾向

人気国 1 位はオーストラリア。4〜5 月出発が 31.0%、準備開始は中央値約 7 か月前から。

年間 3,000 名超 2026 年海外渡航データ	35.8% オーストラリアを選択	31.0% 4〜5 月出発	約 7 か月 準備期間中央値

株式会社ラストリゾートは、2025 年 12 月 1 日〜2026 年 11 月 30 日の年間 3,000 名超の実際の海外渡航データを分析し、2027 年のワーキングホリデーの人気国、人気都市、渡航時期、準備期間などの傾向をまとめました。ワーホリ層 611 名を分析したところ、人気国 1 位はオーストラリア。出発時期では 4 月が 18.1%で最多となり、4〜5 月だけで全体の 31.0%を占めました。

また、具体的な渡航準備を開始した時点から出発までの期間を分析すると、準備期間の中央値は約 7 か月でした。89.1%が出発の 3 か月以上前、58.8%が 6 か月以上前から準備を開始しており、多くの方が余裕を持ってワーキングホリデーの準備を進めていることが分かりました。さらに、1 か国だけで完結せず、複数の国を組み合わせて渡航するケースも見られています。円安や海外の物価高が続くなか、2027 年は限られた予算と時間を有効に使うための、効率的かつ実践的なワーキングホリデー準備がより重要になると予測しています。

調査・分析概要

対象期間	2025 年 12 月 1 日〜2026 年 11 月 30 日
海外渡航者数	3,000 名超
集計対象	ラストリゾートを利用して海外渡航した顧客
ワーホリ渡航者	611 名

※2026 年 11 月分は、集計時点で確定している出発予定を含みます。

2027 年のワーホリ人気国は？ 1 位はオーストラリア

ワーホリ層 611 名の代表渡航先を国別に集計した結果、オーストラリアが 219 名（35.8%）で最多となりました。次いでカナダ 129 名（21.1%）、ニュージーランド 87 名（14.3%）、韓国 68 名（11.1%）、イギリス 46 名（7.5%）となっています。

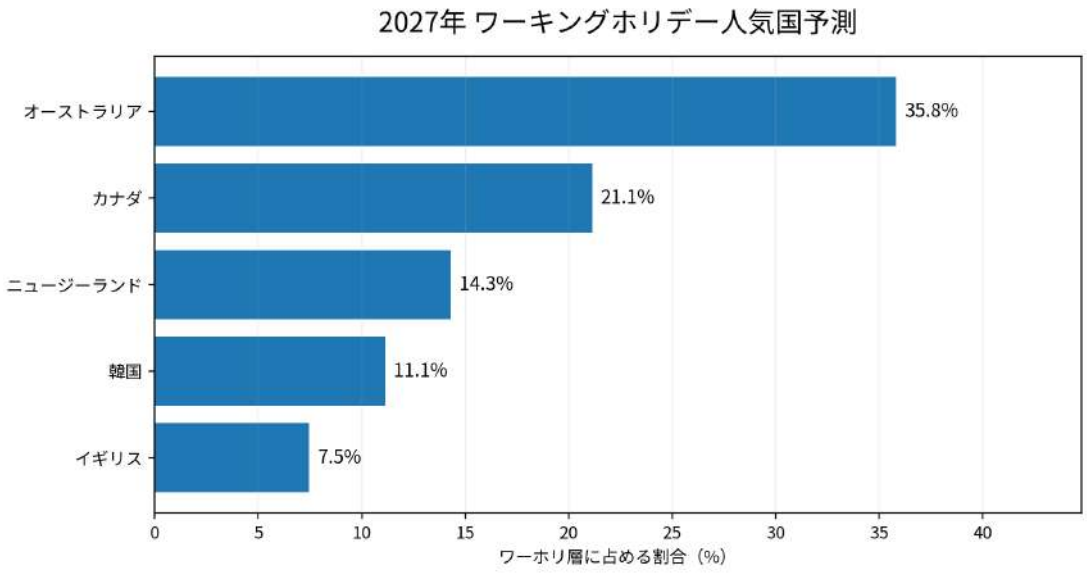


図 1 2027 年ワーキングホリデー人気国予測

出典：株式会社ラストリゾート 2026 年度渡航データ

オーストラリアでは、シドニーだけでなく、メルボルン、ゴールドコースト、ケアンズ、ブリスベンなど複数都市に渡航者が分散しています。2027 年もオーストラリアが中心的なワーキングホリデー渡航先になると予測しています。一方で、ヨーロッパへの渡航ニーズも広がっています。イギリス・ロンドンを中心に、アイルランド、ドイツ、フランス、スペイン、マルタなどヨーロッパ各地への渡航も見られ、2027 年はヨーロッパも注目エリアの一つになると考えています。

※ランキングは当社の 2026 年度渡航実績をもとにした独自予測です。



ワーホリ人気都市は？　1 位はオークランド。オーストラリアは複数都市に人気が分散

国単位ではオーストラリアが 1 位となりましたが、都市別ではオークランドが 81 名（13.2%）で最多。バンクーバー67 名（10.9%）、ソウル 66 名（10.8%）、トロント 59 名（9.6%）、シドニー58 名（9.5%）が続きました。

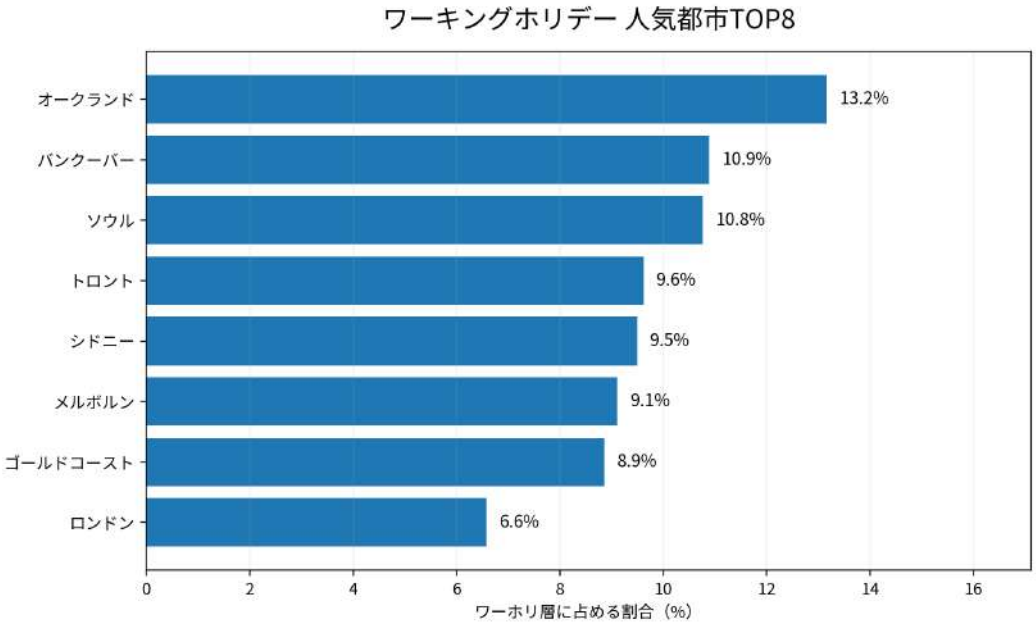


図 2　ワーキングホリデー人気都市 TOP8

出典：株式会社ラストリゾート 2026 年度渡航データ

オーストラリアはシドニー58 名、メルボルン 55 名、ゴールドコースト 53 名が上位に入り、「一都市への集中」ではなく、複数都市から渡航先を選ぶ傾向が見られます。



ワーホリは何月に行く？ 最多は 4 月の 18.1%

ワーホリ層 611 名の出発月を見ると、最も多かったのは 4 月の 110 名（18.1%）でした。2 位は 5 月 79 名（12.9%）、3 位は 9 月 70 名（11.4%）。特に 4 月と 5 月を合わせると 189 名、全体の 31.0%となります。

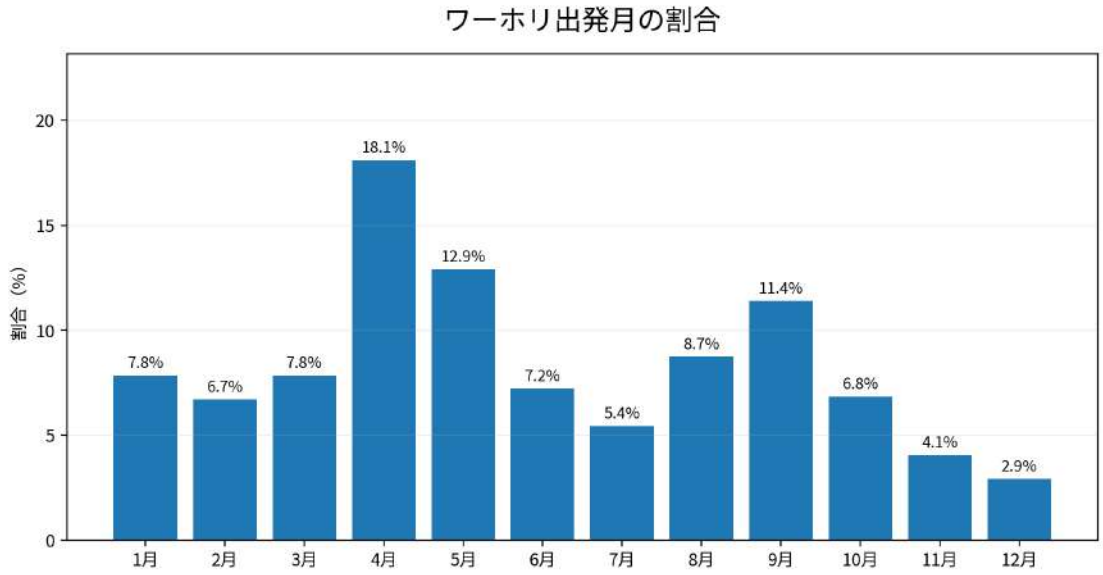


図 3 ワーホリ出発月の割合

出典：株式会社ラストリゾート 2026 年度渡航データ

短期留学では夏休みを利用した渡航が多い一方、ワーキングホリデーでは、卒業、就職、転職、退職など生活の区切りをつけやすい春に長期海外生活をスタートする人が多いことがうかがえます。

2027 年についても、4～5 月は主要な出発シーズンになると予測しています。

一方で、出発時期は日本側の都合だけでなく、渡航先の求人が増える時期や観光・サービス業の繁忙期など、現地の季節性を踏まえて決めることも重要です。

また、多くの人が出発する時期をあえてずらし、現地での仕事探しや生活の立ち上げを進めるという選択肢もあります。

「いつ行く人が多いか」だけでなく、「自分の目的に合った時期はいつか」という視点で渡航時期を考えることが大切です。

ワーホリの準備はいつから？ 中央値は出発の約 7 か月前

ワーホリ層について、ラストリゾートで具体的な渡航準備を開始した時点から出発日までの期間を分析しました。

その結果、有効データ 610 名の準備期間の中央値は 213 日、約 7 か月前でした。

さらに、89.1%が出発の 3 か月以上前、58.8%が 6 か月以上前から準備を開始しており、多くの方が余裕を持ってワーキングホリデーの準備を進めていることが分かりました。

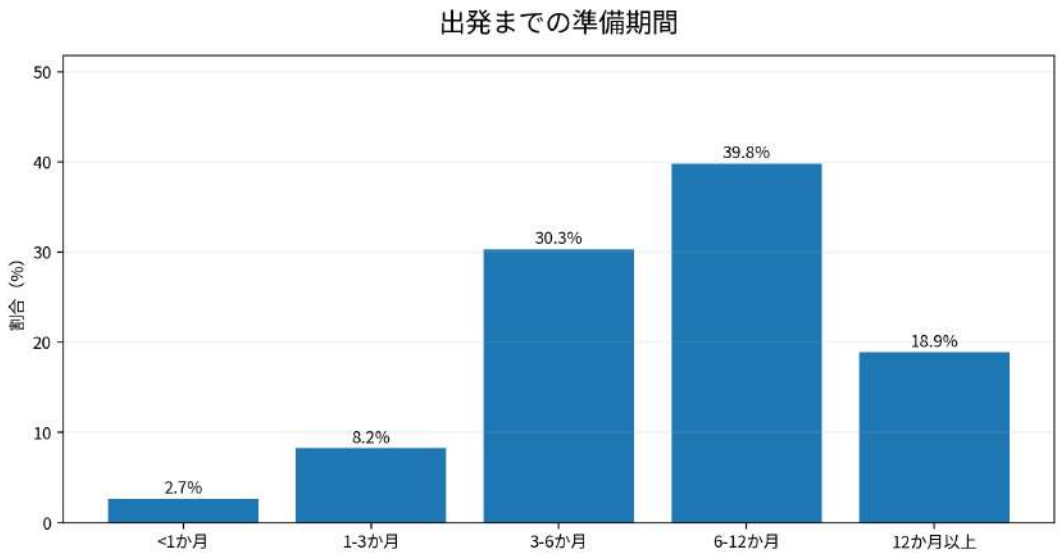


図 4　出発までの準備期間

出典：株式会社ラストリゾート 2026 年度渡航データ

ビザ申請、航空券、保険、滞在先、英語学習、現地での仕事探しなど、長期の海外生活にはさまざまな準備が必要です。

特に人気渡航先であるオーストラリアでは、ワーキングホリデービザの申請需要増加を背景に、審査に以前より時間を要するケースも見られています。オーストラリア政府も、渡航前に余裕を持って申請するよう案内しており、渡航日から逆算した早めの準備がより重要になっています。

今回のデータからも、出発直前ではなく、半年～1 年程度前から具体的に動き始める層が多いことが分かります。

ワーホリの滞在期間は？　中央値は約 1 年間

ワーホリ層 611 名の滞在期間の中央値は 364 日で、約 1 年間でした。さらに、512 名（83.8%）が 300～365 日間の滞在となっています。

180～299 日の滞在は 60 名（9.9%）にとどまり、半年程度で帰国するより、約 1 年間現地で生活するスタイルが中心です。限られたワーキングホリデー期間を有効に使うためにも、渡航前からの準備が重要になります。

2 か国留学とは？「英語を学ぶ国」と「働く国」を分ける新しい選択肢

実際の渡航データからも、1 か国だけで完結せず、複数の国を組み合わせて渡航するケースが見られます。

特に、フィリピンなどで英語を学んだ後、オーストラリアやカナダなどのワーキングホリデー先へ移動するなど、「英語を学ぶ国」と「働きながら生活する国」を分ける 2 か国留学という渡航スタイルも見られています。

限られたワーキングホリデー期間をより有効に活用するため、英語力を身につけてからワーキングホリデーをスタートするという選択肢も、今後さらに注目されると考えています。

2027 年ワーキングホリデー、4 つのキーワード

1. オーストラリア人気は継続：ワーホリ層の 35.8%がオーストラリアを選択。複数都市に人気が分散。
2. 4～5 月が主要な出発シーズン：ワーホリ層の 31.0%が 4～5 月に出発。
3. 準備開始は約 7 か月前：準備期間の中央値は 213 日。58.8%が半年以上前から準備。
4. 「1 か国完結」だけでなく 2 か国留学へ：複数国を組み合わせる渡航スタイルも見られています。

円安や海外の物価高が続くなか、2027 年のワーキングホリデーでは、限られた予算と時間をより有効に使うための効率的かつ実践的な準備が、これまで以上に重要になると考えています。

渡航前から英語力を高め、ビザや仕事探し、滞在先などを計画的に整えることで、現地到着後の時間をより有効に活用できます。これからのワーホリでは「どこへ行くか」だけでなく、「いかに準備してから渡航するか」が重要なポイントになっていくと考えています。

円安・物価高時代の新しいワーホリ準備

円安や海外の物価高が続くなか、ワーキングホリデー先に到着してから英語を学び始めるのではなく、費用を抑えながら英語力を高め、そのうえでワーキングホリデーをスタートするという考え方が注目されています。



その選択肢の一つが、今注目のフィジー留学です。
フィジーでは、欧米主要国への語学留学と比べて留学費用を大きく抑えられることが魅力の一つです。滞在期間やプランによっては、欧米留学の 3 分の 1 程度の費用に抑えられるケースもあります。
また、オーストラリアやニュージーランドなどオセアニアの主要なワーキングホリデー渡航先にも近く、「フィジーで英語を学ぶ → ワーホリ先へ移動する」という 2 か国留学との相性が良いことも特徴です。

そして何より、フィジー留学の大きな魅力の一つが、人々のフレンドリーさと人との距離の近さです。



現地では気さくに話しかけてくれる人も多く、教室の中だけでなく、日常生活の中でも英語を使う機会をつくりやすい環境があります。

「間違えたらどうしよう」「英語で話しかけるのが恥ずかしい」といった、日本人が感じやすい英会話への心理的なハードルを乗り越え、まずは英語を使ってコミュニケーションを取ることに慣れる。フィジーでの生活そのものが、ワーキングホリデーに向けた実践的な準備を後押しします。

ラストリゾートでは現在、フィジーの語学学校「フリーバード」のグループ入りを記念し、フィジー留学とワーキングホリデーを組み合わせた特別な「2 か国ワーホリ」パッケージをご案内しています。
英語力に不安がある方、限られた予算を有効に使いたい方、ワーホリ先ではできるだけ仕事や現地生活に時間を使いたい方に向けた、今だけの特別プランです。
詳しい内容については、お近くのラストリゾート国内オフィスまでお問い合わせください。
https://www.lastresort.co.jp/domestic_offices/

株式会社ラストリゾートについて

株式会社ラストリゾートは、海外留学・ワーキングホリデーを支援する留学エージェントです。ワーキングホリデー、語学留学、高校留学、長期留学など、お客様の目的に合わせた海外渡航をサポートしています。
渡航前の留学相談から学校・滞在先の手配、海外渡航後の現地生活まで、一貫した留学サポートを提供しています。

会社名：株式会社ラストリゾート
所在地：東京都品川区
代表者：代表取締役社長 堀内 勇太
事業内容：海外留学エージェント事業、海外生活サポート事業、ワーキングホリデー支援
URL：https://www.lastresort.co.jp/